

3. 郡山市まちづくり基本指針施策の満足度重要度

(1) まちづくりへの満足度結果一覧

まちづくり（取組み）における45項目（施策）の満足度平均得点をランキング化した。

表3-1 45項目（施策）の満足度ランキング

平均得点69.7点

順位	前年度 順位	分野	項目	満足度 (点)	順位の変動	10位以上の 変動
1位	(1位)	Ⅱ. 交流・観光の未来	音楽のまちづくり	77.6	→	
2位	(9位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	広聴広報	76.1	↗	
3位	(2位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	医療	76.0	↘	
4位	(3位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	自然環境	74.8	↘	
5位	(6位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	スポーツ・文化・芸術	74.3	↗	
6位	(4位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	防災	73.7	↘	
6位	(5位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	健康づくり	73.7	↘	
8位	(13位)	基盤的取組	D×推進	73.4	↗	
9位	(13位)	Ⅱ. 交流・観光の未来	歴史・文化遺産	73.3	↗	
10位	(8位)	Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来	子育て	72.9	↘	
11位	(7位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	住環境	71.9	↘	
12位	(10位)	Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来	青少年健全育成	71.7	↘	
13位	(11位)	Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来	乳幼児教育・家庭教育	71.4	↘	
14位	(24位)	基盤的取組	復興、創生の更なる推進	70.9	↑	△
15位	(16位)	Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来	地域学習	70.8	↗	
15位	(20位)	Ⅱ. 交流・観光の未来	都市間交流・国際交流	70.8	↗	
17位	(12位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	男女共同参画	70.4	↘	
18位	(28位)	Ⅰ. 産業・仕事の未来	産業創出・企業誘致	70.2	↑	△
18位	(19位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	防犯・交通安全・消費者対策	70.2	↗	
18位	(29位)	Ⅰ. 産業・仕事の未来	地域産業	70.2	↗	
21位	(17位)	基盤的取組	セーフコミュニティ	69.9	↘	
22位	(30位)	基盤的取組	行政経営	69.8	↗	
22位	(21位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	5R(資源の有効利用)	69.8	↘	
24位	(18位)	Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来	学校教育	69.7	↘	
25位	(22位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	生涯学習	69.4	↘	
26位	(26位)	基盤的取組	SDGs	69.3	→	
27位	(15位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	地域コミュニティ	69.2	↓	▼
28位	(24位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	市民協働	69.1	↘	
29位	(26位)	Ⅰ. 産業・仕事の未来	特産品ブランド化	68.5	↘	
30位	-	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	多文化共生	67.9	-	
30位	(38位)	基盤的取組	連携中枢都市圏構想	67.9	↗	
32位	(34位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	ユニバーサルデザイン	67.7	↗	
33位	(31位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	エネルギー	67.6	↘	
34位	(33位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	地域福祉	67.5	↘	
35位	(23位)	Ⅰ. 産業・仕事の未来	創業・起業支援	67.4	↓	▼
36位	(35位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	障がい者福祉	67.2	↘	
37位	(31位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	高齢者福祉	66.8	↘	
38位	(39位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	環境活動	66.3	↗	
39位	(37位)	Ⅰ. 産業・仕事の未来	雇用・就労	65.7	↘	
40位	(40位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	計画的な都市づくり	65.6	→	
40位	(41位)	Ⅱ. 交流・観光の未来	観光	65.6	↗	
42位	-	Ⅰ. 産業・仕事の未来	輸出・販路拡大	65.3	-	
43位	(36位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	交通・道路	64.7	↘	
44位	(42位)	Ⅱ. 交流・観光の未来	シティプロモーション・関係人口	63.1	↘	
45位	(43位)	Ⅰ. 産業・仕事の未来	農林業	59.6	↘	

平均より高い

平均より低い

【よい】の回答者に100点、【どちらかといえばよい】に80点、【どちらかといえば不満】に60点、【不満】に40点、【わからない】に0点を与え、各項目の平均得点を算出した結果を掲載しました（表3-1参照）。

平均得点が高いほど、「満足」との評価が高い施策・事業です。

平均得点の算出式、算出例を以下に掲載しました。

※1：平均得点の算出式

$$\begin{aligned} & \left(\left[\text{【よい】} \times 100 + \left[\text{【どちらかといえばよい】} \times 80 + \right. \right. \right. \\ & \quad \left. \left. \left[\text{【どちらかといえば不満】} \times 60 + \left[\text{【不満】} \times 40 + \left[\text{【わからない】} \times 0 \right) \right. \right. \right. \\ & \quad \left. \left. \div \text{「わからない」と無回答者を除いた } n \text{ 数} \right. \right. \end{aligned}$$

※2：平均得点の算出例

例えば、「よい」126人、「どちらかといえばよい」283人、
「どちらかといえば不満」91人、「不満」51人、「わからない」106人ですと、

$$\frac{126 \text{ 人} \times 100 \text{ 点} + 283 \text{ 人} \times 80 \text{ 点} + 91 \text{ 人} \times 60 \text{ 点} + 51 \text{ 人} \times 40 \text{ 点} + 106 \text{ 人} \times 0 \text{ 点}}{551 \text{ 人}}$$

≒77.6 ※平均得点77.6点となります。

※2019年度から「普通」評価をなくした4段階評価とし、配点も変更しました。

— 満足度の上位3つは、「音楽のまちづくり」「広聴広報」「医療」 —

【全体結果】

現在のまちづくりに対する満足度については、「音楽のまちづくり」「広聴広報」「医療」が上位となっています。

「10年間の満足度上位3項目」において、「音楽のまちづくり」は「音楽都市こおりやま」（2017年度以前の項目名）を含めると、2016年度以降は毎年上位3項目に含まれ、「医療」は2017年度以外、毎年度上位3項目に含まれており、継続して満足度の上位にある施策です（表3-2参照）。

「音楽のまちづくり」については、「音楽都市宣言」から17年経過し、市民の認知度が高いこと、「医療」については、病床数が全国平均を大きく上回るなど、市民のニーズを満たす医療を提供していることなどが、満足度につながっていると考えられます。

また、前年度調査に比べて「復興、創生の更なる推進」「産業創出・企業誘致」が大きく順位を上げました。

これらの項目に関連する本市の主な取組みは、次のとおりです。

「復興、創生の更なる推進」では、東日本大震災からの復興及び原子力災害からの生活環境の回復、復興の先を見据えた地方創生の取り組みを推進してきました。

本市産品等の販路拡大、風評の払拭を図るため、市内の外、首都圏等での販売促進キャンペーン活動に継続して取り組むとともに、ECサイトによる購入機会の創出、震災以降、販路が途絶えていた沖縄県への郡山市産米「あさか舞」の販路開拓、市内や首都圏等での販売促進などを行っています。

また、こおりやま産業博や海外販路開拓支援事業等を通し、国内外に向けて多様な商談機会を創出しています。

「産業創出・企業誘致」では、産総研福島再生可能エネルギー研究所やふくしま医療機器開発支援センター等の専門機関と連携した新事業展開や、チャレンジ新製品認定事業・オープンファクトリーKORIAYMAなどの市内製造業への活発的な支援のほか、製造業を中心とした県市外企業への誘致活動や、その企業の受け皿として郡山西部第一工業団地の造成を進めています。

6分野の満足度を比較すると、最も満足度が高かった分野は「学び育む子どもたちの未来」の71.3点、次いで「誰もが地域で輝く未来」の70.6点、「基盤的取組」の70.2点となっています（表3-3参照）。

表3-2 10年間の満足度上位3項目

順位 年度	1位	2位	3位
2025	音楽のまちづくり	広聴広報	医療
2024	音楽のまちづくり	医療	自然環境
2023	医療	音楽のまちづくり	自然環境
2022	医療	音楽のまちづくり	自然環境
2021	医療	除去土壌等の搬出	音楽のまちづくり
2020	医療	音楽のまちづくり	自然環境
2019	音楽のまちづくり	自然環境	医療
2018	音楽のまちづくり	医療	自然環境
2017	広聴広報	音楽都市こおりやま	除染
2016	広聴広報	音楽都市こおりやま	医療

表3-3 6分野の満足度ランキング

順位	分野	満足度 (点)
1位	Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来 (子育て・教育・地域学習分野)	71.3
2位	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来 (市民協働・生涯学習・保健福祉・男女共同参画分野)	70.6
3位	基盤的取組 (行政経営・セーフコミュニティ・連携中枢都市圏・SDGs・DX推進・復興、創生の更なる推進)	70.2
4位	Ⅱ. 交流・観光の未来 (交流・文化・観光・シティプロモーション分野)	70.1
5位	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来 (環境・防災・市民安全・生活インフラ分野)	69.2
6位	Ⅰ. 産業・仕事の未来 (商業・工業・雇用・農林業分野)	66.7

(2) これからの取組み重要度結果一覧

まちづくり（取組み）における45項目（施策）の重要度の平均割合（回答率）をランキング化しました。

表3-4 45項目（施策）の重要度ランキング

平均割合11.5%						
順位	前年度順位	分野	項目	重要度(%)	順位の変動	10位以上の変動
1位	(1位)	Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来	子育て	39.7	⇒	
2位	(3位)	Ⅰ. 産業・仕事の未来	雇用・就労	37.9	⇩	
3位	(2位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	高齢者福祉	34.4	⇩	
4位	(4位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	交通・道路	27.9	⇒	
5位	(7位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	医療	25.1	⇩	
6位	(6位)	Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来	学校教育	24.3	⇒	
7位	(5位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	防犯・交通安全・消費者対策	21.3	⇩	
8位	(9位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	計画的な都市づくり	18.7	⇩	
9位	(11位)	Ⅰ. 産業・仕事の未来	地域産業	18.1	⇩	
10位	(10位)	Ⅰ. 産業・仕事の未来	産業創出・企業誘致	18.0	⇒	
11位	(8位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	防災	16.5	⇩	
12位	(12位)	Ⅱ. 交流・観光の未来	観光	16.3	⇒	
13位	(21位)	Ⅰ. 産業・仕事の未来	農林業	14.2	⇩	
14位	(13位)	Ⅱ. 交流・観光の未来	音楽のまちづくり	12.5	⇩	
15位	(20位)	Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来	乳幼児教育・家庭教育	12.4	⇩	
16位	(19位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	住環境	11.3	⇩	
17位	(14位)	Ⅰ. 産業・仕事の未来	特産品ブランド化	11.2	⇩	
18位	(15位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	健康づくり	10.9	⇩	
19位	(16位)	Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来	青少年健全育成	10.1	⇩	
19位	(23位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	障がい者福祉	10.1	⇩	
21位	(22位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	自然環境	9.4	⇩	
22位	(18位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	スポーツ・文化・芸術	8.0	⇩	
22位	(26位)	基盤的取組	行政経営	8.0	⇩	
24位	(28位)	基盤的取組	復興・創生の更なる推進	7.7	⇩	
25位	(32位)	Ⅱ. 交流・観光の未来	歴史・文化遺産	7.6	⇩	
26位	(27位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	地域福祉	7.4	⇩	
27位	(23位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	地域コミュニティ	6.9	⇩	
27位	(25位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	5R(資源の有効利用)	6.9	⇩	
29位	(29位)	Ⅰ. 産業・仕事の未来	創業・起業支援	6.5	⇒	
29位	(34位)	Ⅱ. 交流・観光の未来	シティプロモーション・関係人口	6.5	⇩	
31位	(16位)	基盤的取組	SDGs	6.0	⇩	▼
32位	(31位)	Ⅱ. 交流・観光の未来	都市間交流・国際交流	5.9	⇩	
32位	(30位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	環境活動	5.9	⇩	
34位	(33位)	Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来	地域学習	5.3	⇩	
35位	(36位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	生涯学習	4.5	⇩	
36位	(36位)	基盤的取組	連携中枢都市圏構想	3.6	⇒	
37位	(35位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	エネルギー	2.9	⇩	
38位	(41位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	市民協働	2.7	⇩	
39位	-	Ⅰ. 産業・仕事の未来	輸出・販路拡大	2.6	-	
40位	(40位)	基盤的取組	DX推進	2.4	⇒	
41位	(43位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	広聴広報	1.8	⇩	
41位	(42位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	男女共同参画	1.8	⇩	
41位	(38位)	基盤的取組	セーフコミュニティ	1.8	⇩	
44位	-	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	多文化共生	1.7	-	
44位	(39位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	ユニバーサルデザイン	1.7	⇩	

平均より高い

平均より低い

平均割合（回答率）が高いほど、「重要度」が高い施策・事業です。

平均割合（回答率）の算出式、算出例を以下に掲載しました。

※1：平均割合（回答率）の算出式

$(\text{回答数}) \div n \text{ 数} \times 100\%$

※2：平均割合（回答率）の算出例

例えば、「子育て」263人ですと、

$263 \text{ 人} \div 662 \text{ 人} \times 100\% \approx 39.7$

※平均割合（回答率）=39.7%となります。

— 重要度の上位3つは、「子育て」「雇用・就労」「高齢者福祉」 —

【全体結果】

現在のまちづくりに対する重要度については、「子育て」「雇用・就労」「高齢者福祉」が上位となっています（表3-4参照）。

「子育て」については、急速に進む少子化や人口減少などへの関心の高まりに加え、本市は2022年7月に「全力で子育て応援中！」と活動宣言し、「子どもが安心して生まれ、育つまち郡山」を目指して、「ベビーファースト」運動を推進していることなどから、各種団体や事業者など地域ぐるみでの子育て支援の取組みが広がったこともあり、重要度が高まっていると考えられます。

また、「10年間の重要度上位3項目」において、「雇用・就労」は2018年度から、「高齢者福祉」は2016年度から、ほぼ毎年度上位3項目に含まれており、継続して重要度の高い施策です（表3-5参照）。

また、上位10位内では、「雇用・就労」「医療」「計画的な都市づくり」「地域産業」が前年度調査に比べて順位を上げています。

「雇用・就労」「地域産業」では、若者の市外への流出問題、後継者問題等から、若者が定着できる環境づくりが重視され、今まで以上に地域産業の活性化の重要性が高まっていると考えられます。

また、6分野の重要度を比較すると、最も重要度が高かった分野は「学び育む子どもたちの未来」が18.4%で最も高くなっています。次いで、「産業・仕事の未来」の15.5%と続いています（表3-6参照）。

表3-5 10年間の重要度上位3項目

順位 年度	1位	2位	3位
2025	子育て	雇用・就労	高齢者福祉
2024	子育て	高齢者福祉	雇用・就労
2023	子育て	雇用・就労	高齢者福祉
2022	雇用・就労	子育て	高齢者福祉
2021	子育て	雇用・就労	高齢者福祉
2020	雇用・就労	防災	学校教育
2019	雇用・就労	子育て	高齢者福祉
2018	雇用・就労	子育て	高齢者福祉
2017	高齢者福祉	子育て	学校教育
2016	高齢者福祉	学校教育	子育て

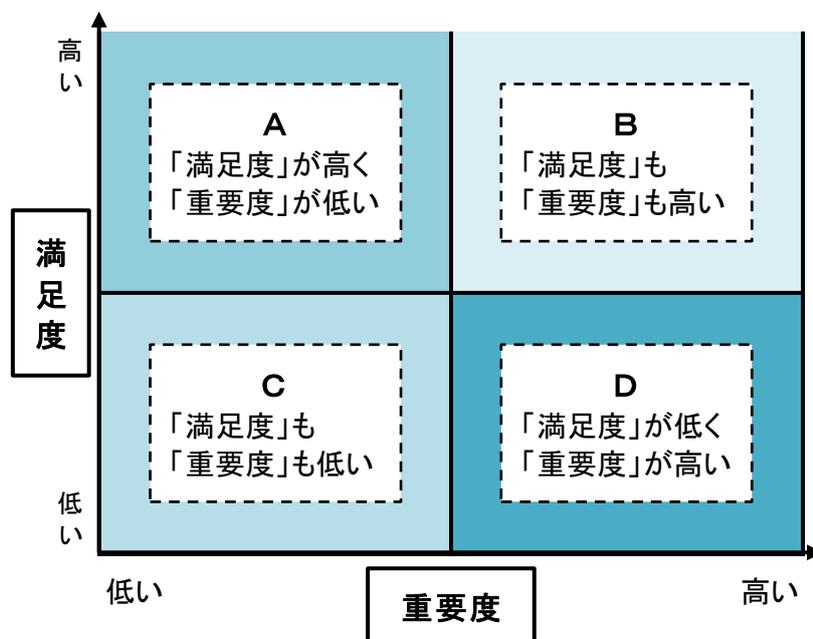
表3-6 6分野別の重要度ランキング

順位	分野	重要度 (%)
1位	Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来 (子育て・教育・地域学習分野)	18.4
2位	Ⅰ. 産業・仕事の未来 (商業・工業・雇用・農林業分野)	15.5
3位	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来 (環境・防災・市民安全・生活インフラ分野)	12.3
4位	Ⅱ. 交流・観光の未来 (交流・文化・観光・シティプロモーション分野)	9.8
5位	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来 (市民協働・生涯学習・保健福祉・男女共同参画分野)	9.6
6位	基盤的取組 (行政経営・セーフコミュニティ・連携中枢都市圏・ SDGs・DX推進・復興、創生の更なる推進)	4.9

(3) 施策の優先度《満足度と重要度の関係》

まちづくり（取組み）における45項目（施策）の優先度を整理するため、「満足度」を縦軸、「重要度」を横軸にとり、各項目の「満足度」「重要度」の結果を散布図として示しました（図3-1参照）。満足度平均得点の算出方法につきましては前出28頁を、重要度平均割合の算出方法につきましては前出32頁を参照ください。

なお、「満足度」「重要度」の関係を表す領域線は、それぞれの平均値となります。



A：維持領域

重要度は低い満足度が高い取組みは、現状を維持していく項目（施策）です。

B：重要維持領域

重要度が高く満足度も高いため、引き続き重点的に維持していく項目（施策）です。

C：要検討領域

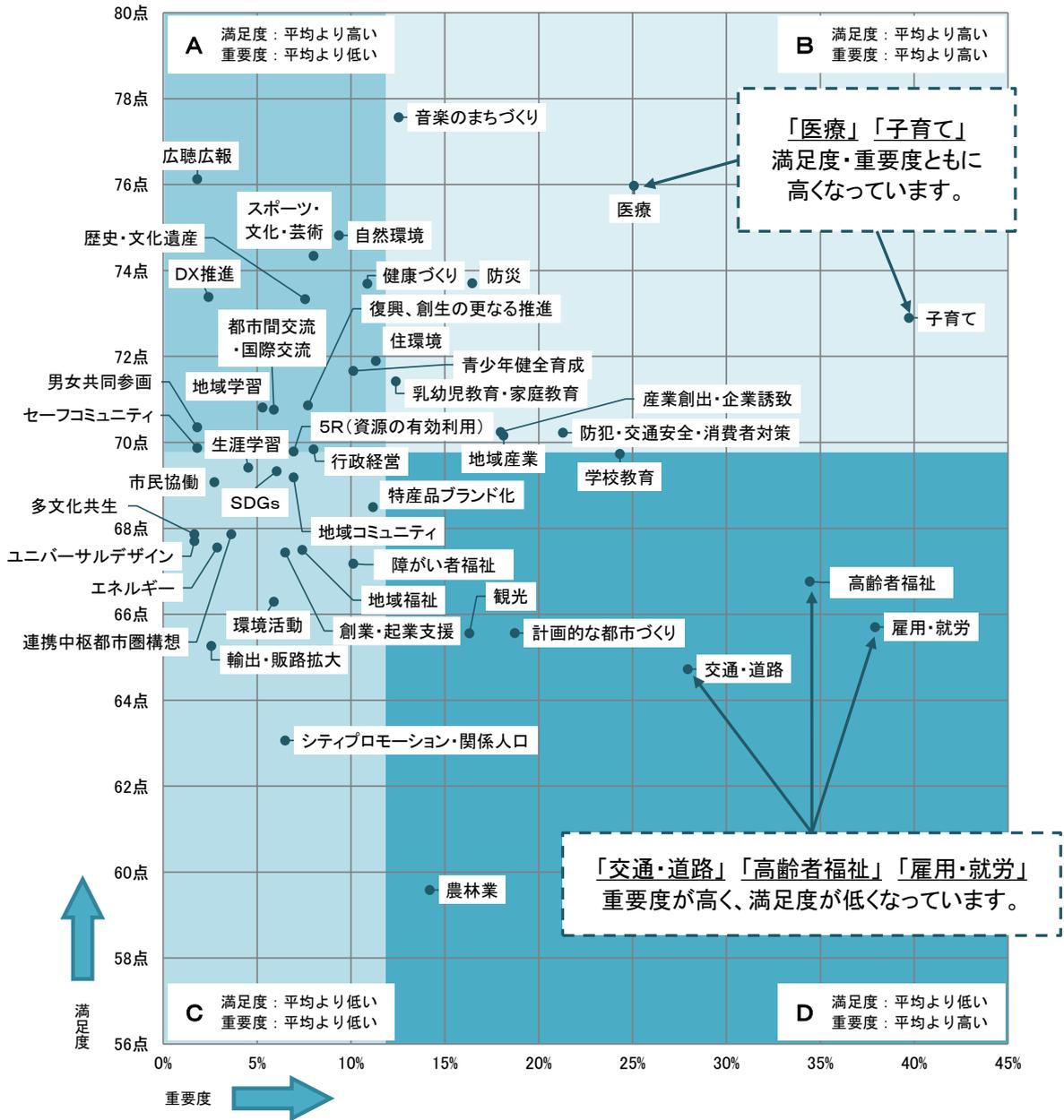
重要度も満足度も低い取組みは、市民ニーズを再認識し、必要があれば大きく改善する必要がある項目（施策）です。

D：重要取組領域

重要度が高い満足度が低いため、重点的に取組みを進める必要がある項目（施策）です。

※上記のそれぞれの領域に該当した項目（施策）の満足度や重要度の高低については、全体の平均値と比較した相対的判断となっています。

図3-1 施策の優先度（満足度と重要度の関係散布図）

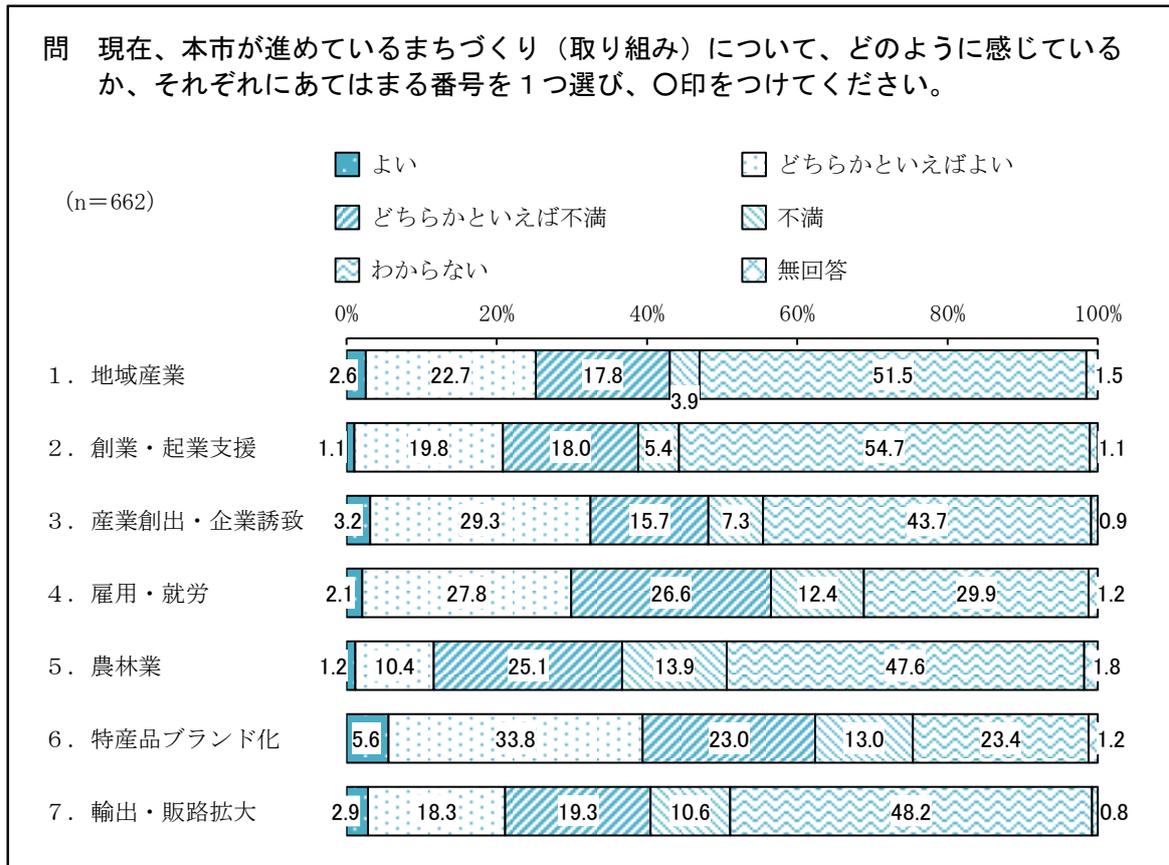


—— 「交通・道路」「高齢者福祉」「雇用・就労」に関して
優先的な施策の改善が求められています ——

現在の満足度が低く、今後の重要性が高い領域「D」にある施策は市民ニーズが高いと考えられます。この領域は市民生活に密接な関係のある施策が多く、とりわけ「交通・道路」「高齢者福祉」「雇用・就労」は市民ニーズの高いポイントとなっています。

(4) 分野別属性別満足度結果

①産業・仕事の未来（商業・工業・雇用・農林業分野）への満足度



—— 産業・仕事の未来において「満足」と思う人が最も多いのは『特産品ブランド化』 ——

【全体結果】

《産業・仕事の未来》における、各項目に対する満足・不満をみると、「満足（「よい」と「どちらかといえばよい」の合計）」の割合が最も高いのは『6. 特産品ブランド化』（39.4%）となり、次いで『3. 産業創出・企業誘致』（32.5%）も3割台が続いています。

一方で、「不満（「不満」と「どちらかといえば不満」の合計）」の割合が最も高いのは『4. 雇用・就労』および『5. 農林業』（39.0%）でした。『6. 特産品ブランド化』については、評価が分かれる結果となっています（満足：39.4%、不満：36.0%）。

また、「わからない」の割合が『2. 創業・起業支援』（54.7%）と『1. 地域産業』（51.5%）で5割を超えています。事業、施策の推進など、今後もさらに周知していく必要があります。

各項目の平均得点を算出した結果を次頁に掲載しました（図3-2参照）。

平均得点をみると、『1. 地域産業』および『3. 産業創出・企業誘致』が70.2点で最も高くなっています。

一方で、最も低かったのは『5. 農林業』(59.6点)でした。

なお、性別、年代別平均得点の上位3つを以下に掲載しました(表3-7参照)。

図3-2 産業・仕事の未来への満足度<平均得点>(全体)

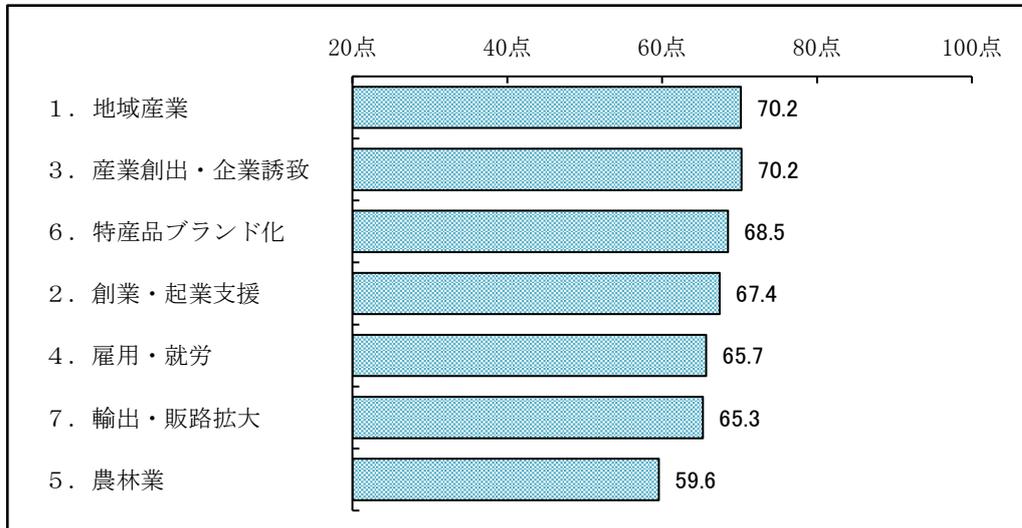


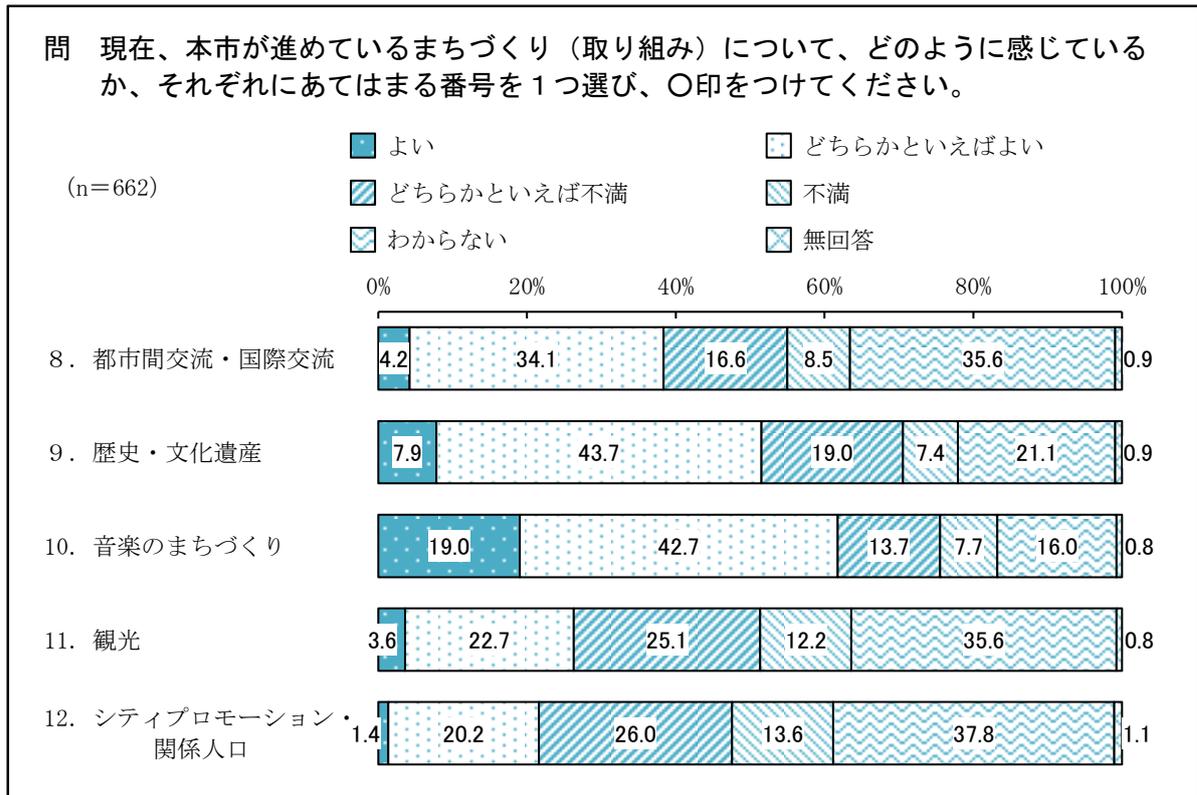
表3-7 産業・仕事の未来への満足度<性別、年代別平均得点の上位3つ>

	男性	女性
1位	地域産業 (70.3点)	産業創出・ 企業誘致 (72.9点)
2位	産業創出・ 企業誘致 (68.3点)	特産品 ブランド化 (71.3点)
3位	雇用・就労 (67.0点)	地域産業 (70.6点)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
1位	特産品 ブランド化 (85.7点)	産業創出・ 企業誘致 (78.0点)	特産品 ブランド化 (71.0点)	産業創出・ 企業誘致 (71.2点)	産業創出・ 企業誘致 (71.8点)	地域産業 (70.1点)	産業創出・ 企業誘致 (70.6点)
2位	雇用・就労 (83.3点)	地域産業 (74.7点)	地域産業 (69.7点)	特産品 ブランド化 (70.9点)	地域産業 (69.7点)	産業創出・ 企業誘致 (66.1点)	地域産業 (70.0点)
3位	地域産業 産業創出・ 企業誘致 農林業 輸出・ 販路拡大 (80.0点)	創業・ 起業支援 (71.8点)	産業創出・ 企業誘致 (67.8点)	地域産業 (68.7点)	特産品 ブランド化 (67.9点)	創業・ 起業支援 特産品 ブランド化 (66.0点)	創業・ 起業支援 (69.1点)

②交流・観光の未来

(交流・文化・観光・シティプロモーション分野) への満足度



—— 交流・観光の未来において「満足」と思う人が最も多いのは『音楽のまちづくり』 ——

【全体結果】

《交流・観光の未来》における、各項目に対する満足・不満をみると、「満足（「よい」と「どちらかといえばよい」の合計）」の割合が最も高いのは『10. 音楽のまちづくり』（61.7%）でした。以下、『9. 歴史・文化遺産』（51.6%）と続き、上位を構成しています。

一方で、「不満（「不満」と「どちらかといえば不満」の合計）」の割合が最も高いのは『12. シティプロモーション・関係人口』（39.6%）で、次点で『11. 観光』（37.3%）となっています。

各項目の平均得点を算出した結果を次頁に掲載しました（図 3-3 参照）。

平均得点をみると、『10. 音楽のまちづくり』が77.6点で最も高くなっています。

一方で、最も低かったのは『12. シティプロモーション・関係人口』（63.1点）でした。

なお、性別、年代別平均得点の上位3つを次頁に掲載しました（表 3-8 参照）。

図3-3 交流・観光の未来への満足度＜平均得点＞（全体）

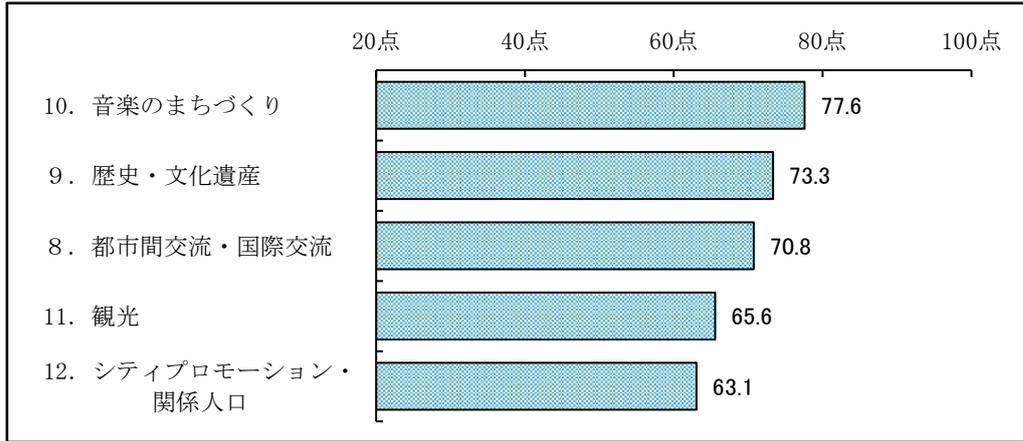
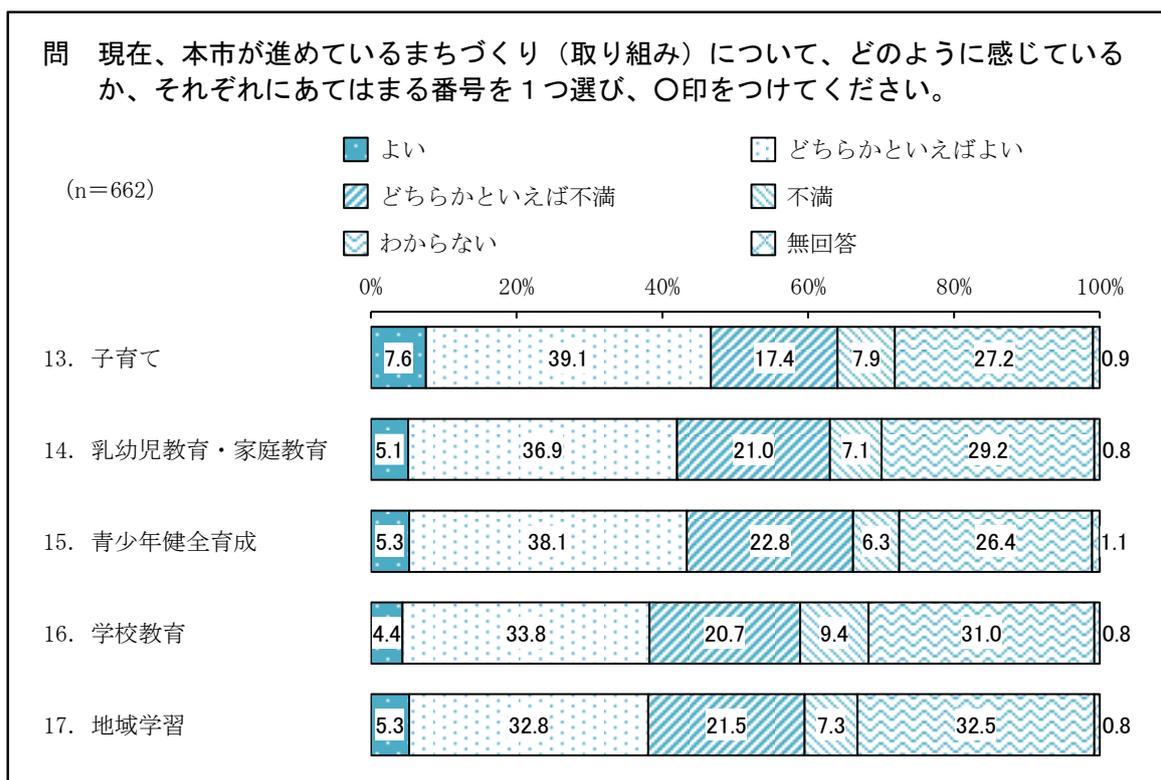


表3-8 交流・観光の未来への満足度＜性別、年代別平均得点の上位3つ＞

	男性	女性
1位	音楽のまちづくり (75.3点)	音楽のまちづくり (80.1点)
2位	歴史・文化遺産 (71.3点)	歴史・文化遺産 (75.8点)
3位	都市間交流・国際交流 (69.1点)	都市間交流・国際交流 (72.6点)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
1位	歴史・文化遺産 (85.0点)	歴史・文化遺産 (77.8点)	音楽のまちづくり (77.3点)	音楽のまちづくり (75.1点)	音楽のまちづくり (77.6点)	音楽のまちづくり (78.6点)	音楽のまちづくり (78.7点)
2位	都市間交流・国際交流 (77.1点)	音楽のまちづくり (77.3点)	歴史・文化遺産 (74.0点)	歴史・文化遺産 (71.4点)	歴史・文化遺産 (73.3点)	歴史・文化遺産 (73.5点)	歴史・文化遺産 (73.1点)
3位	音楽のまちづくり (75.0点)	都市間交流・国際交流 (74.2点)	都市間交流・国際交流 (68.3点)	都市間交流・国際交流 (68.1点)	都市間交流・国際交流 (71.0点)	都市間交流・国際交流 (72.7点)	都市間交流・国際交流 (70.9点)

③学び育む子どもたちの未来（子育て・教育・地域学習分野）への満足度



—— 学び育む子どもたちの未来において

「満足」と思う人が最も多いのは『子育て』 ——

【全体結果】

《学び育む子どもたちの未来》における、各項目に対する満足・不満をみると、「満足（「よい」と「どちらかといえばよい」の合計）」の割合が最も高いのは『13. 子育て』（46.7%）となり、次いで『15. 青少年健全育成』（43.4%）、『14. 乳幼児教育・家庭教育』（42.0%）も4割台が続いています。特に『13. 子育て』に関しては、安心して産み育てる環境において、子育てしやすい環境づくりに努めるなど、今後特に重点的な維持が期待されています。

一方で、「不満（「不満」と「どちらかといえば不満」の合計）」の割合が最も高いのは『16. 学校教育』（30.1%）となっています。

各項目の平均得点を算出した結果を次頁に掲載しました（図 3-4 参照）。

平均得点をみると、『13. 子育て』が72.9点で最も高くなっています。

一方で、最も低かったのは『16. 学校教育』（69.7点）でした。

なお、性別、年代別平均得点の上位3つを次頁に掲載しました（表 3-9 参照）。

図3-4 学び育む子どもたちの未来への満足度〈平均得点〉（全体）

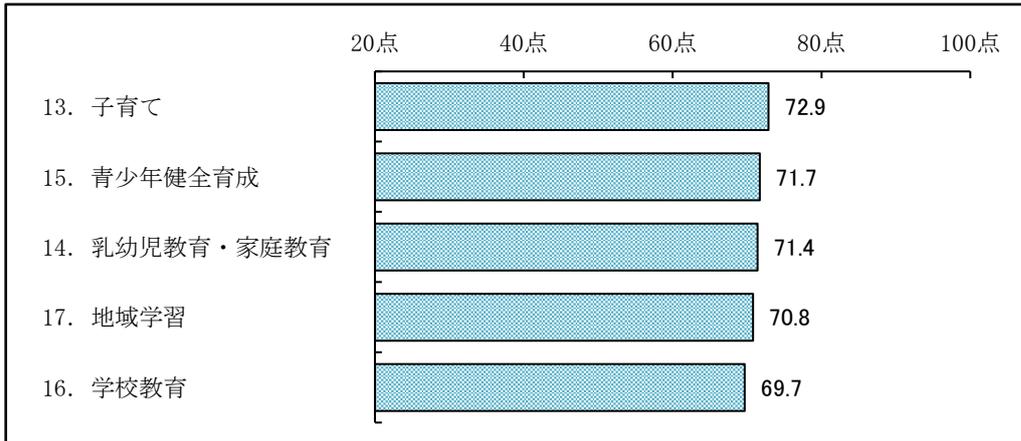


表3-9 学び育む子どもたちの未来への満足度〈性別、年代別平均得点の上位3つ〉

	男性	女性
1位	子育て (72.4点)	子育て 地域学習
2位	乳幼児教育・ 家庭教育 (70.5点)	(73.8点)
3位	青少年 健全育成 (70.4点)	青少年 健全育成 (73.1点)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
1位	青少年 健全育成 (84.0点)	地域学習 (74.4点)	子育て (70.3点)	子育て (75.1点)	子育て (75.8点)	子育て 学校教育 (70.1点)	青少年 健全育成 (72.7点)
2位	子育て 乳幼児教育・ 家庭教育 (80.0点)	子育て (74.1点)	乳幼児教育・ 家庭教育 (68.3点)	地域学習 (74.3点)	青少年 健全育成 (75.2点)		子育て (72.4点)
3位		青少年 健全育成 (73.8点)	地域学習 (67.9点)	乳幼児教育・ 家庭教育 (72.8点)	乳幼児教育・ 家庭教育 (72.7点)	乳幼児教育・ 家庭教育 (69.9点)	乳幼児教育・ 家庭教育 (72.3点)

【全体結果】

《誰もが地域で輝く未来》における、各項目に対する満足・不満をみると、「満足（「よい」と「どちらかといえばよい」の合計）」の割合が最も高いのは『27. 医療』（63.3%）でした。以下、『20. 広聴広報』（58.0%）、『21. スポーツ・文化・芸術』（56.0%）、『26. 健康づくり』（51.2%）が5割台で続き、上位を構成しています。

一方で、「不満（「不満」と「どちらかといえば不満」の合計）」の割合が最も高いのは『23. 地域福祉』（38.3%）で、次点で『24. 高齢者福祉』（37.6%）となっています。

各項目の平均得点を算出した結果を以下に掲載しました（図 3-5 参照）。

平均得点をみると、『20. 広聴広報』が76.1点で最も高く、次いで『27. 医療』（76.0点）となっています。

一方で、最も低かったのは『24. 高齢者福祉』（66.8点）でした。

なお、性別、年代別平均得点の上位3つを次頁に掲載しました（表 3-10 参照）。

図 3-5 誰もが地域で輝く未来への満足度＜平均得点＞（全体）

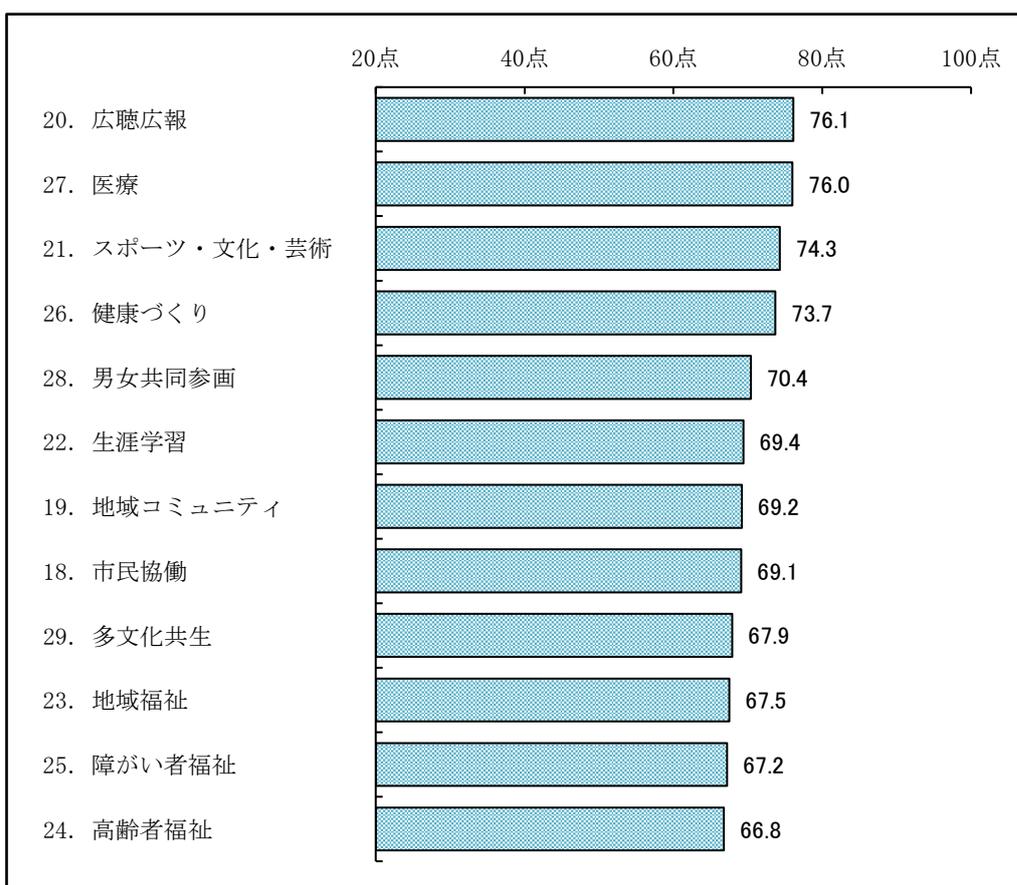


表3-10 誰もが地域で輝く未来への満足度＜性別、年代別平均得点の上位3つ＞

	男性	女性
1位	医療 (76.7点)	広聴広報 (78.3点)
2位	広聴広報 (74.0点)	スポーツ・ 文化・芸術 (76.5点)
3位	スポーツ・ 文化・芸術 健康づくり (72.1点)	医療 (76.1点)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
1位	障がい者福祉 (90.0点)	医療 (82.5点)	医療 (72.9点)	医療 (76.3点)	広聴広報 (78.0点)	医療 (74.7点)	広聴広報 (79.0点)
2位	医療 (82.5点)	広聴広報 (82.1点)	スポーツ・ 文化・芸術 (72.8点)	広聴広報 (74.9点)	スポーツ・ 文化・芸術 (75.9点)	スポーツ・ 文化・芸術 (73.4点)	医療 (77.0点)
3位	市民協働 広聴広報 健康づくり (80.0点)	スポーツ・ 文化・芸術 (78.1点)	広聴広報 (72.1点)	健康づくり (74.5点)	医療 (74.9点)	広聴広報 (73.3点)	健康づくり (75.3点)

平均得点をみると、『33. 自然環境』が74.8点で最も高くなっています。
 一方で、最も低かったのは『37. 交通・道路』(64.7点)でした。
 なお、性別、年代別平均得点の上位3つを以下に掲載しました(表3-11参照)。

図3-6 暮らしやすいまちの未来への満足度<平均得点>(全体)

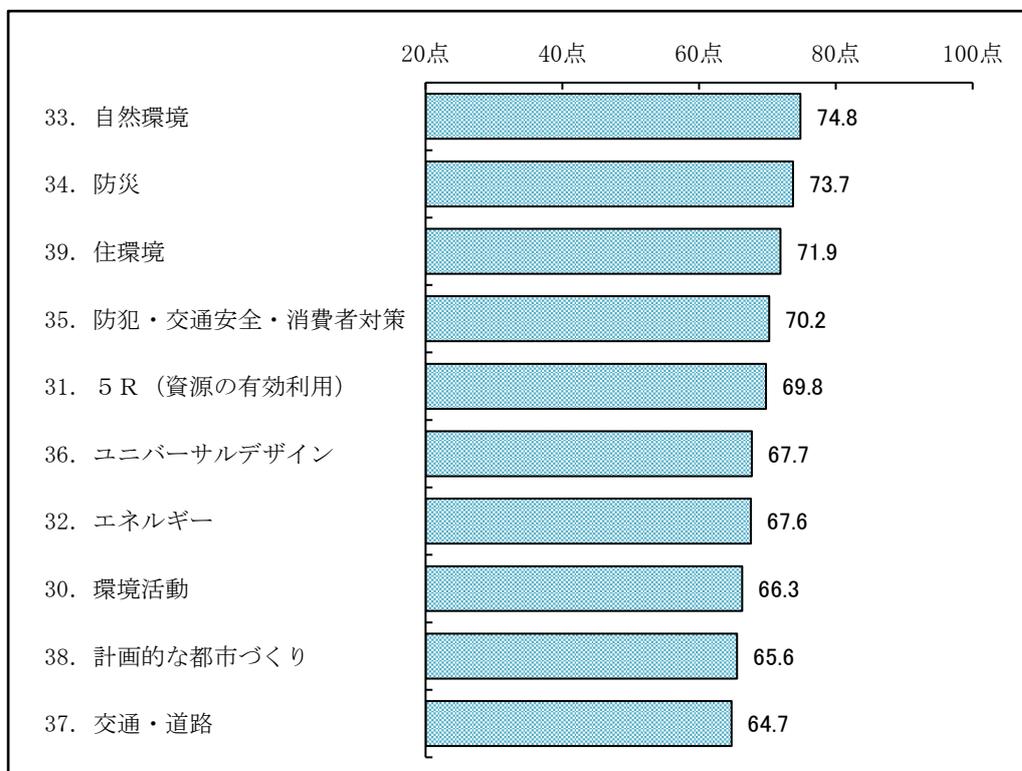


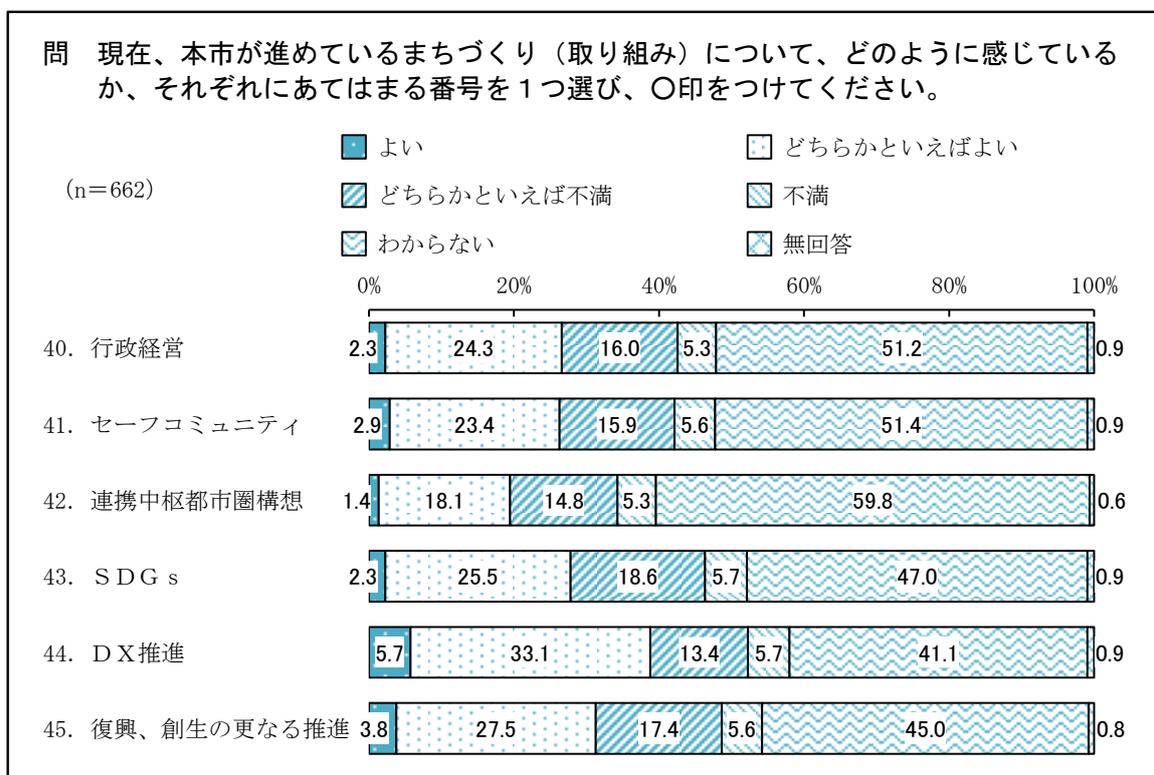
表3-11 暮らしやすいまちの未来への満足度<性別、年代別平均得点の上位3つ>

	男性	女性
1位	防災 (73.5点)	自然環境 (76.8点)
2位	自然環境 (73.3点)	防災 (74.6点)
3位	住環境 (71.7点)	住環境 (72.7点)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
1位	環境活動	住環境 (78.5点)	自然環境 (77.4点)	防災 (73.7点)	自然環境 (77.0点)	自然環境 (73.4点)	防災 (75.0点)
2位	防災	防災 (77.3点)	防災 (72.1点)	自然環境 (73.3点)	防災 (73.7点)	防災 (72.0点)	自然環境 (74.6点)
3位	防犯・交通安全 ・消費者対策 (80.0点)	防犯・交通安全 ・消費者対策 (76.3点)	5R(資源の 有効利用) (69.4点)	住環境 (72.5点)	住環境 (73.2点)	住環境 (70.1点)	住環境 (72.7点)

⑥基盤的取組

(行政経営・セーフコミュニティ・連携中枢都市圏・SDGs・DX推進・復興、創生の更なる推進) への満足度



— 基盤的取組において「満足」と思う人が最も多いのは『DX推進』 —

【全体結果】

《基盤的取組》における、各項目に対する満足・不満をみると、「満足（「よい」と「どちらかといえばよい」の合計）」の割合が最も高いのは『44. DX推進』（38.8%）となり、次いで『45. 復興、創生の更なる推進』（31.3%）も3割台で続いています。

一方で、「不満（「不満」と「どちらかといえば不満」の合計）」の割合が最も高いのは『43. SDGs』（24.3%）となっています。

また、すべての項目において「わからない」の割合が最も高くなっています。事業、施策の推進など、今後もさらに周知していく必要があります。

各項目の平均得点を算出した結果を次頁に掲載しました（図3-7参照）。

平均得点をみると、『44. DX推進』が73.4点で最も高くなっています。

一方で、最も低かったのは『42. 連携中枢都市圏構想』（67.9点）でした。

なお、性別、年代別平均得点の上位3つを以下に掲載しました（表3-12参照）。

図3-7 基盤的取組への満足度〈平均得点〉（全体）

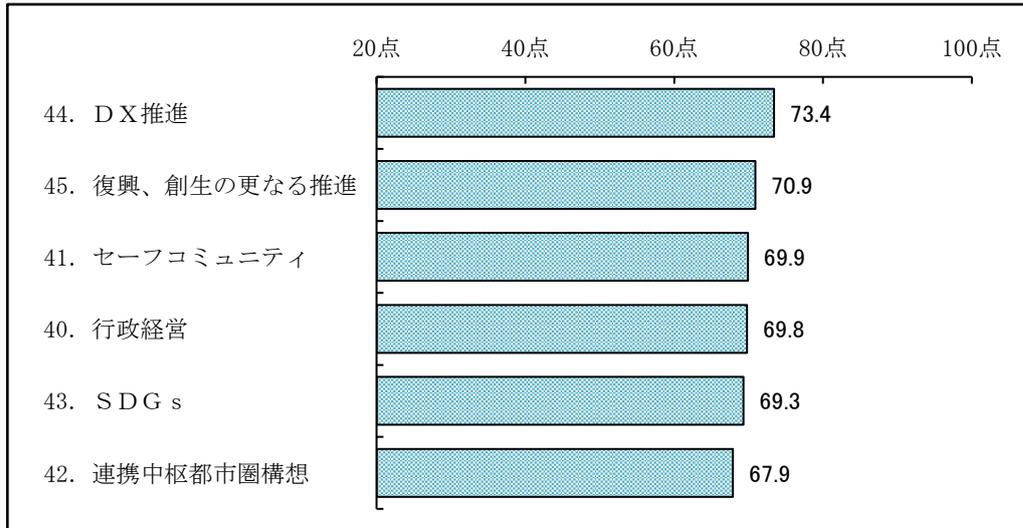


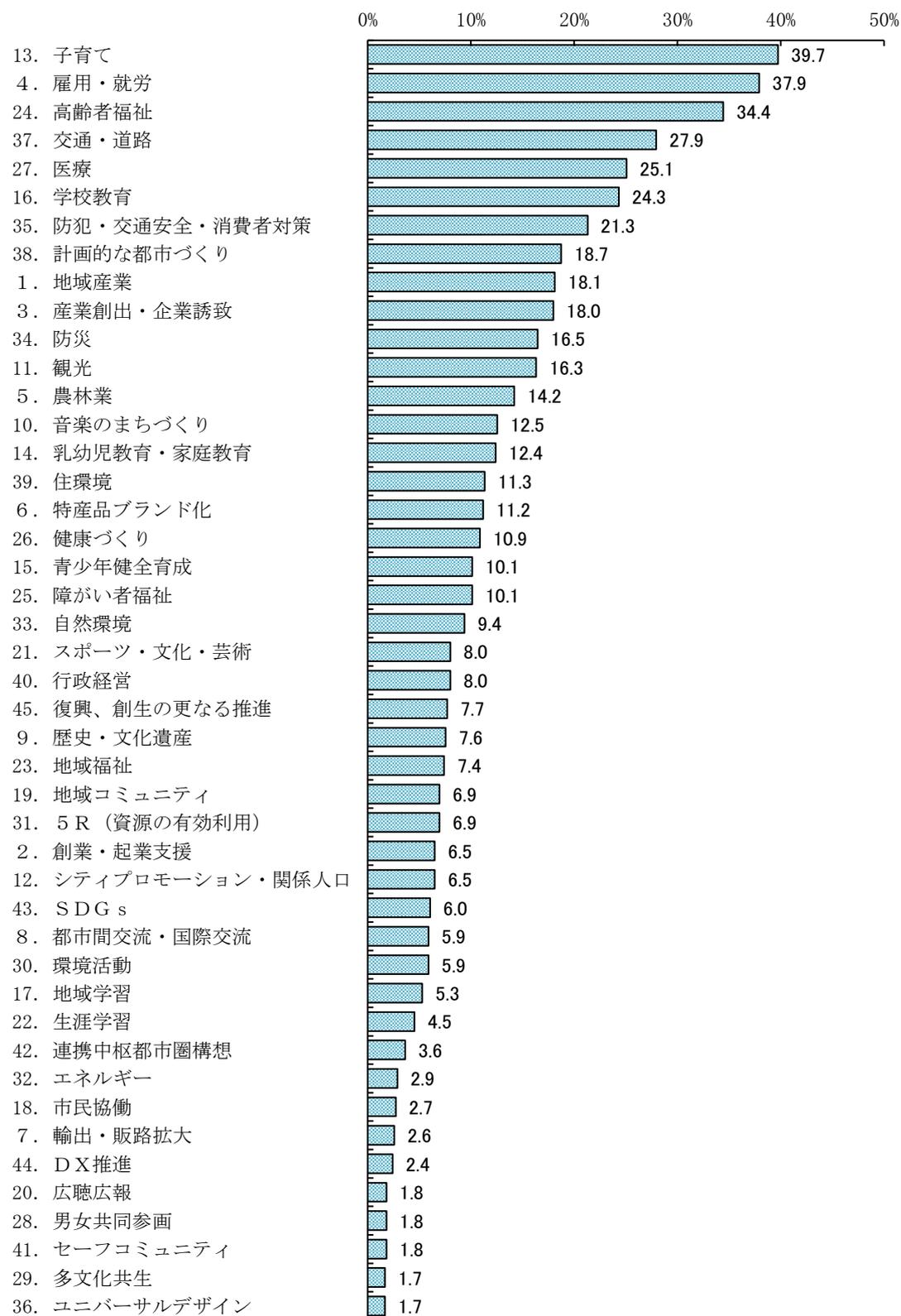
表3-12 基盤的取組への満足度〈性別、年代別平均得点の上位3つ〉

	男性	女性
1位	DX推進 (71.2点)	DX推進 (76.0点)
2位	復興、創生の 更なる推進 (69.1点)	復興、創生の 更なる推進 (73.2点)
3位	セーフ コミュニティ (68.5点)	行政経営 (72.4点)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
1位	DX推進 (80.0点)	DX推進 (80.9点)	DX推進 (72.8点)	DX推進 (76.1点)	DX推進 行政経営 (72.3点)	DX推進 (72.5点)	復興、創生の 更なる推進 (70.3点)
2位	復興、創生の 更なる推進 (76.0点)	セーフ コミュニティ (80.0点)	復興、創生の 更なる推進 (69.8点)	復興、創生の 更なる推進 (72.7点)	復興、創生の 更なる推進 (71.8点)	セーフ コミュニティ (68.9点)	行政経営 (70.0点)
3位	行政経営 セーフ コミュニティ (72.0点)	復興、創生の 更なる推進 (75.2点)	行政経営 (69.4点)	SDGs (71.1点)	SDGs (71.1点)	復興、創生の 更なる推進 (68.4点)	DX推進 (69.9点)

(5) 分野別属性別重要度結果 (複数回答)

問 現在、本市が進めているまちづくり (取り組み) について、以下の1~45の項目の中から特に重要と思われるものを5つ選び、その番号に○印をつけてください。



—— 最も重要視されている施策・事業は「子育て」 ——

【全体結果】

『13. 子育て』(39.7%)の割合が最も高くなっています。以下、『4. 雇用・就労』(37.9%)、『24. 高齢者福祉』(34.4%)、『37. 交通・道路』(27.9%)、『27. 医療』(25.1%)の順で続いています。

なお、性別、年代別の上位5つを以下に掲載しました(表3-13参照)。

表3-13 これからの取組みについての重要度<性別、年代別の上位5つ>

	男性	女性
1位	子育て (38.6点)	子育て (41.4点)
2位	雇用・就労 (35.2点)	雇用・就労 (39.7点)
3位	高齢者福祉 (29.0点)	高齢者福祉 (39.4点)
4位	交通・道路 (28.0点)	交通・道路 (28.0点)
5位	地域産業 学校教育 (23.2点)	医療 (27.1点)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
1位	観光	子育て (48.6点)	子育て (60.8点)	雇用・就労	高齢者福祉 (39.3点)	高齢者福祉 (40.5点)	高齢者福祉 (48.1点)
2位	子育て (50.0点)	雇用・就労 (35.1点)	雇用・就労 (51.4点)	子育て (44.4点)	子育て (33.9点)	雇用・就労 (38.6点)	子育て (34.6点)
3位	学校教育	交通・道路 (29.7点)	学校教育 (37.8点)	学校教育 (34.2点)	雇用・就労 (33.0点)	子育て (32.7点)	雇用・就労 (31.4点)
4位	防災 (37.5点)	医療 (27.0点)	医療 (28.4点)	交通・道路 (29.1点)	交通・道路 (31.3点)	交通・道路 (30.7点)	交通・道路 (25.6点)
5位	高齢者福祉 雇用・就労 計画的な 都市づくり 行政経営 SDGs 男女共同参画 ユニバーサル デザイン (25.0点)	農林業 乳幼児教育・ 家庭教育 (24.3点)	地域産業 (25.7点)	防災 (26.5点)	計画的な 都市づくり (30.4点)	防犯・ 交通安全・ 消費者対策 (24.8点)	防犯・ 交通安全・ 消費者対策 (25.0点)